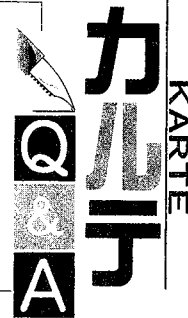


頬が熱を帯び赤くなる。約1週間で収まるが、再発を繰り返す。パッチテストで反応はなく、ロコイド(一般名・ヒドロコルチゾン酪酸エステル)では悪化するので、ワセリンを塗っている。酒さではないそうだが、皮膚科以外の受診先はないか。(70歳、女性)



頬の紅斑

症状に合う外用剤、根気良く探す

な内科的疾患まで含めると、非常に多数の疾患が該当します。また、これもまれですが、成人型アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、皮膚リンパ腫など全身性の皮膚疾患の部分症状が、たまたま顔面に現れているとも考えられます。酒さではないとの診断です

も難しいので、通院中の医師に高次の皮膚科専門医の診断や精査(セカンドオピニオン)を受けたいと伝えても良いでしょう。治療歴も大切なので、紹介状は必須です。もし本当に内科的疾患が疑われるようなら、総合病院であれば内科的な精査も同日に受けられる

眠など生活習慣の見直しも良いかもかもしれません。よくみられる症状ですが、長引くことも多く、診断・治療も難しいと言えます。時間がかかるかもしれませんが治療に王道はなく、根気良く現在の症状に合う外用剤を探していく作業になります。いた

当該症状からは主な皮膚疾患だけでなく接触皮膚炎、脂漏性皮膚炎、光線過敏症のほか、皮膚真菌症などの皮膚感染症、酒さ様皮膚炎など多数の可能性があります。さらに全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎、甲状腺機能亢進症、カルチノイド症候群などのまれ

が、疾患の時期、治療に対する反応、微妙な症状の違いなどで総合的な判断が変わることも多く、混雑時を避けて通院中の医師と緊密なコミュニケーションを取ることをおすすめします。皮膚以外の症状が乏しい場合、いきなり内科を受診して

可能性もあります。パッチテストでは陰性だったようですが、あくまで目安であり、時期によって反応は違ってくる。処方された外用剤以外のスキンケア商品ができるだけ控え、紫外線や冷

ずらに複数の医療機関を受診するのは避け、通院中の医師と良い関係を築くことをお勧めします。(兵庫県医師会、山田琢二姫路市、やまだ皮膚科クリニック院長)
◇第1、3、4日曜に掲載します。